

2016 年度事業報告

総務委員会

1. 用語検討特別委員会の設置、運営
 - ・構成メンバー：藤主管、坂上副管、鎌倉代議員、野呂理事、米山代議員、山岸理事
 - ・基礎系と応用系に分けて用語選定の準備を行った。
2. ホームページ特別委員会の運営
3. パンフレット（入会案内）作成
4. BOX による理事会書類システムの構築
5. 学会業務運営（理事会、総会等）
 - ・理事会開催（5 回）、社員総会開催（1 回）

法務委員会

1. 定款・細則について
 - ・理事会において細則が承認され、学会 Web に公開した。
2. 倫理委員会について
 - ・倫理委員会を設置し、今後の作業について共有した。
3. 選挙について
 - ・役員選挙のスケジュール等について検討した。
 - ・選挙管理委員会を理事会において設置した。

財務委員会

1. 学会の財務状況の点検、並びに必要な改善を検討した。
 - ・「行動分析学研究」の CiNii から J-STAGE への移管に伴う予算措置を行った。但し、JST による作業遅れのため、2017 年度に再度予算措置し移管作業を行う。
 - ・ニューズレターの紙媒体廃止に向けた検討を行った。その結果、2017 年度に周知し、2018 年度より廃止とすることとなった。
2. 「研究会開催助成事業」及び「自主公開講座助成事業」を行った。
 - ・6 件に対し計 260,000 円を助成した。他に名義後援が 2 件。

渉外委員会

1. ABAI の支部としての活動
 - ・J-ABA 事業報告／事業計画書を提出した（2015 年度分）。
2. ABAI 年次大会の ABAI Expo で J-ABA の活動を紹介するポスターを展示
 - ・2016 年 5 月に開催された ABAI Chicago で実施。

3. ABAI 年次大会中の各種ビジネスミーティングへの出席
 - ・ 2016 年 5 月に開催された ABAI Chicago で実施。
4. 日本在住学生会員 ABAI/SQAB 参加助成事業
 - ・ 2016 年 5 月に開催された ABAI Chicago において 2 名の大学院生に参加助成を行った (75,000 円×2 名=150,000 円)。
 - ・ 2017 年度の助成事業について J-ABA ニュースレターで広報した。
5. 年 4 回、ニュースレターの発行を行った。
6. 「日本行動分析学会若手会」立ち上げの援助を行った。

企画委員会

1. 年次大会支援事業 (大会企画を含む)
 - ・ 2016 年度年次大会開催支援
 - ・ 2017 年度年次大会開催準備支援
 - ・ 2018 年度年以降の年次大会の開催準備
 - ・ 年次大会の会期延長 (2 日半または 3 日間) の調整および包括的な見直しの検討
 - ・ 2016 年度年次大会における学会企画シンポジウムの実施
2. 研究教育推進事業
 - ・ 助成対象となった研究会・シンポジウムに対する支援
 - ・ 冬の学校の継続の検討
3. 社会貢献事業
 - ・ 関連諸学会以外でのシンポジウム、ワークショップ企画の検討

編集委員会

1. 機関誌『行動分析学研究』の発行
 - ・ 第 31 巻第 1 号を 2016 年 8 月 25 日付、同第 2 号を 2017 年 2 月 15 日付で発行した。
2. 機関誌『行動分析学研究』の公開
 - ・ 機関誌のバックナンバーを J-STAGE (独立行政法人科学技術振興機構(JST)運営) で一般無料公開 (オープンアクセス化) する手続きを行った。ただし、発行後 1 年間は閲覧できない条件である。現在、JST がその作業を進めているところである。
3. 出版企画
 - ・ 『行動分析学事典』(丸善出版) の刊行に向け編集作業を進めた。
 - ・ シングルケースデザインに関する入門書の刊行に向けて執筆者ならびに内容の吟味を行った。
 - ・ 市場出版が困難な専門書の出版助成についても可能性を検討した。